

### 3. 学び合いがつむぐ「共にある心」

地域住民、地域団体、事業者などがお互いに学び合い、ともに生きる心を育む。



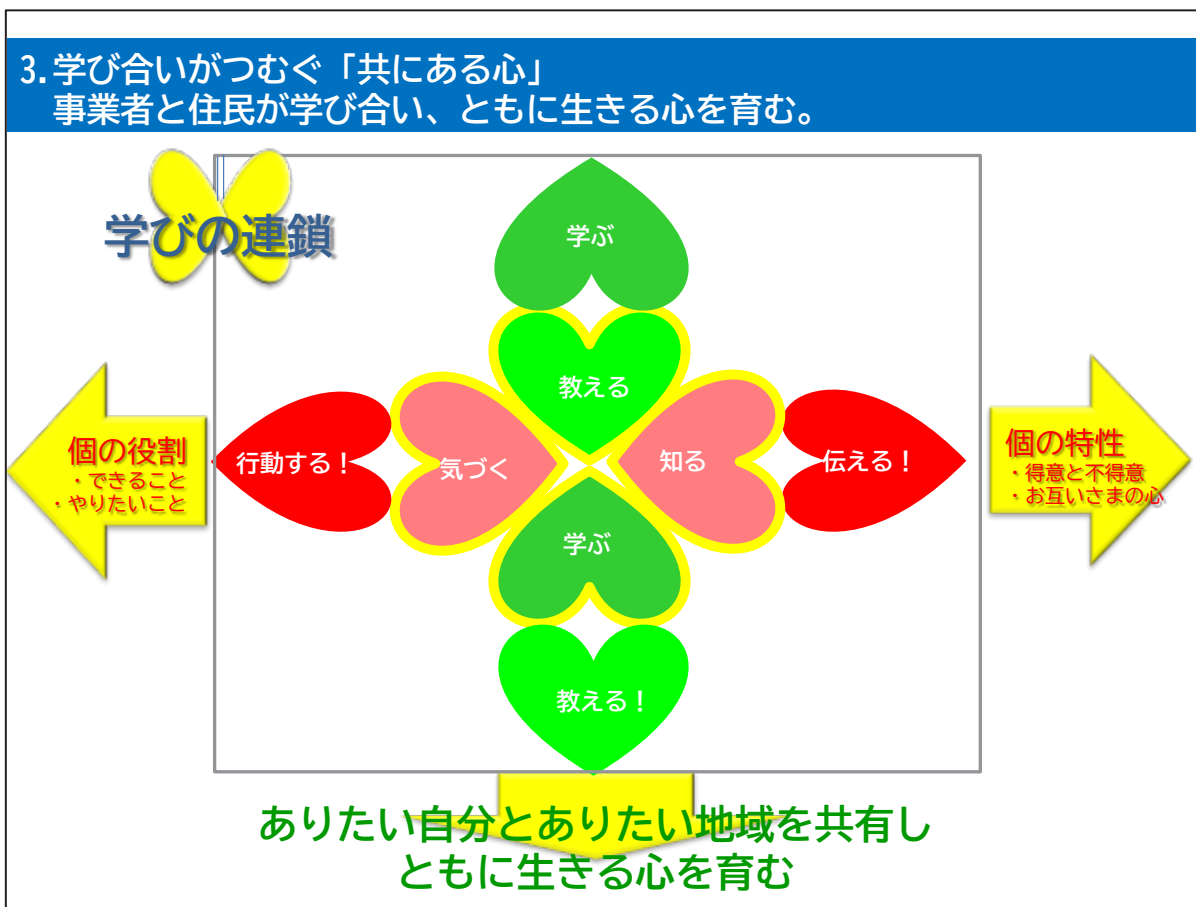
#### 【基本的な考え方】

コロナ禍を経験した私たちの生活は、居住する地域の中で費やす時間が増えました。

このような背景をきっかけに、多くの方は、地域での暮らしがより豊かとなるよう追求する時代へと変わってきています。こうした大きな転換は、多忙な社会で生じた「お互いを知らない住民関係」を少しずつ変えてきています。

地域住民が豊かな時間を費やすためには、一人ひとりが知り合う場を必要とします。お互いを知り、触れ合うきっかけが作ることができれば、地域で発生した問題について、自分事化することができ、みんなで解決に向かう地域社会へと変わることが可能になります。

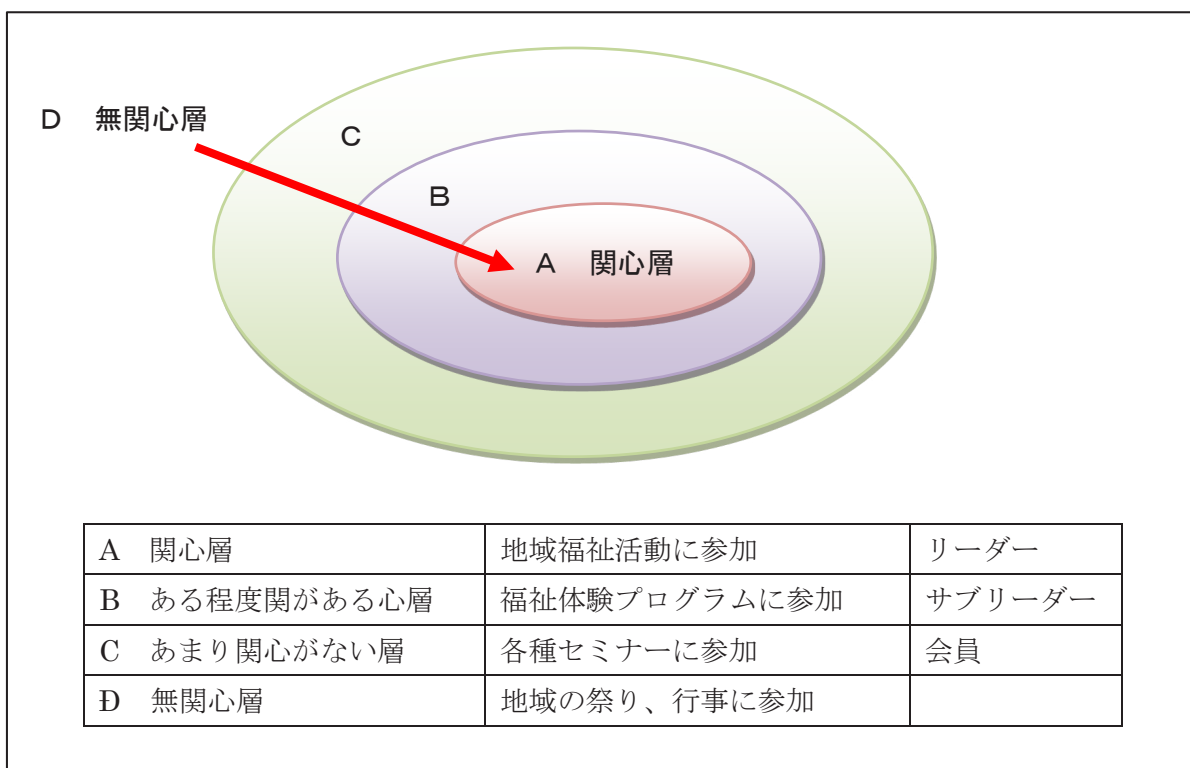
そこで、一人ひとりの心のふれあいを大切にした「学び」を創出し、そこで生まれる「共にある心」が、さらなる幸せの関係を生み出し、より良い関係が継続される地域づくりを目指します。



## 施策1 住民の福祉活動への参加



住民の価値観は十人十色です。主義主張の違いや職業による倫理観の違い、趣味やライフスタイルの違いなど、数え切れないくらいの違いがあります。こうした違いを前提として、お互いに楽しく生活するための知恵を持たなければなりません。共通の価値観ともいえるべき基本的な考え方を学ぶことが必要です。時間はかかりますが、住民を対象とした各種セミナーや体験プログラムの提供が住民の意識を変えることに繋がります。福祉に関心のない住民が福祉活動に参加することは考えられません。セミナーに参加することも難しい現実があると思います。そこで、ともに生きる社会を構築するための基本的な考え方を学ぶセミナーを根気よく開催し、福祉に関心を持つ層を増やす施策を推進します。

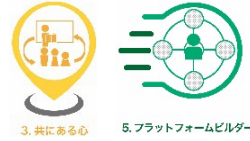


## 施策2 福祉施設を活用したカルチャー教室等の開催



カルチャー教室の開催や体験交流会等で地域住民のつながりを作ることや意識を変えていくことは、住み良い地域づくりに大変有効です。認知症サポーター養成講座の開催や、地域の文化や歴史を学ぶセミナーを提供するのも有効です。そこで、福祉施設を活用したカルチャー教室等を開催し、福祉施設の役割やサービスの内容などを説明しながら、福祉に関心を持つ住民を増やす施策を推進します。

### 施策3 シニア健康ポイント制度（仮称）の創設



現在、自治体では、高齢者のボランティア活動の振興や健康づくりの支援をすることを目的として、シニアボランティア制度や健康ポイント制度等を運用しています。これらの制度は、人生100歳時代を健康に過ごすとともに、活力ある地域づくりに有効な施策ですが、別々に運用することによるデメリットもあります。そこで、今後、シニアボランティアポイント制度と健康ポイント制度を統合し、フレイル予防施策と連携させ、民間活力を導入した「シニア健康ポイント制度（仮称）」を創設し、健康寿命の延伸に向けた施策を推進します。

### 施策4 多様な福祉教育プログラムの展開



市町村単位で取り組んでいる福祉教育を充実させるために、教育委員会と連携し、すべての小中学校で認知症サポーター養成講座を開講できるよう支援します。また、小学校や中学校の生徒の福祉施設体験学習や高校生による一人暮らし高齢者宅への訪問など、地域の教育機関と福祉事業所との連携による多様な福祉教育プログラムを展開する施策を推進します。

